

第6章 愛鷹山に眠る開拓者たち

東海最大級の古墳群と地域の再生

本章は、令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示・講演会『愛鷹山に眠る開拓者たち 東海最大級の古墳群と地域の再生』の開催に伴い、動画配信という形で講演会と共におこなったトークイベントの内容を文字に起こしたものである。パネラーにより若干の修正、語句の統一などを図っている。

なお、講演会資料集は本書 103 頁から掲載している。

【実施日】 令和4年2月20日

【場 所】 沼津市文化財センター

【パネラー】 (所属は当時のもの)

滝沢 誠 (筑波大学)

菊池 吉修 (静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課)

木村 聡 (沼津市教育委員会文化振興課)

佐藤 祐樹 (富士市民部文化振興課)

藤村 翔 (富士市民部文化振興課)

木村 沼津市文化振興課の木村です。ここからは発表者によりまずトークイベントに移っていきたいと思います。

昨年度は会場にいる皆様からの質問をお受けしてそれに回答するような進行だったのですが、今年度、残念ながら私の目の前に誰もお客さんがおりませんので、いくつかテーマを設定しまして深掘りをしていく形態で進めていきたいと思っています。

トークイベントにつきましては富士市の文化振興課の佐藤さんに加わっていただき、木村と共に進めていきます。佐藤さん、皆さん、よろしくお願いいたします。

佐藤 富士市文化振興課の佐藤と申します。木村さんと一緒にトークイベントの司会をつとめさせていただきます。

もし会場に観覧いただいている方がいらっしゃったら、まあこんな質問がでるんじゃないか、ということを想定しながら講師の方々に話をふっていただければと思います。お願いいたします。

木村 それではまず、二つの大きなテーマをあげていきます。

1 点目は冒頭で、本来は趣旨説明で話すべきだったのですが、今、富士市と沼津市は共に「文化財保存活用地域計画」という計画を作っております。富士市さんの方が先行して進めている状況ではあるんですけども、その中で愛鷹山の古墳群というのはですね、先ほど菊池さんから話がありました、「地域らしさ」を非常に表す文化財になる。そういった観点があり、今回のテーマで今日もお話を進めてまいりました。そういうこともございまして、冒頭で私がお話ししましたよ



第 149 図 トークイベントの様子

うに、両市の基礎、礎の部分に、この愛鷹山の古墳群が大きく関わっているんじゃないかという考え方もあろうかと思います。そういった観点も踏まえまして、トークイベントでは、まず1点目として愛鷹山の古墳群、それから今回の講演会に含めましたタイトルの回収といいましょうか、「開拓者」、「東海最大級」、「地域の再生」、というキーワードですね、このあたりを深掘りしていきたいと思っています。

後半戦は、この「地域の再生」というキーワードを基にして、現代、この文化財をどうやって活かしていこうか、こういう話題にいければというふうに考えております。なかなかゴールの見えづらいトークイベントということになるかもしれませんが、ぜひ皆様よろしくお願ひしたいと思っています。

それでは早速スタートしていきたいと思いますが、まずですね、滝沢先生、少しお話をいただいたところもあるのですが、今回焦点をあてた東駿河の古墳時代後期のお話、ただその前の様子ですね、古墳時代中期とはどんな時代だったのか、ここの部分、非常に集落とか古墳が少なくなっていくなど、全国的にどんな状況だったのか、それから、富士市の藤村さんの方からもありました富士山の活動とかですね、そういったことについて、この地域が古墳時代後期にわ一つと古墳が広がっていく前の段階というのを一回整理したいと思っています。滝沢先生からお願いいたします。

滝沢 はい。ちょっと大きな課題をいただけてしまいました。



第150図 トークイベントの様子（木村氏）

古墳時代中期がどういう時期だったのか、というご質問ですが、古墳時代中期というのはほぼ5世紀にあたる時期になるのですが、その時期には、皆さんもよく知っている非常に巨大な前方後円墳が大阪平野に造られる時期です。実はそれだけではなくて、各地でも非常に大きな規模の古墳が造られる時期になっています。

例えば東日本の群馬県では、200メートルを超えるような古墳（太田天神山古墳）がその時期に造られていますし、西日本では岡山県内で200メートル300メートル級の古墳（作山古墳、造山古墳）が造られるのもこの時期なんです。ただ、古墳時代前期では比較的小さな地域単位で有力な古墳が造られているのですが、古墳時代中期という5世紀の時期になると、どうもそれらがいくつか広い範囲にまとめられて、広い範囲の中で、一つ規模の大きな古墳が造られるという状況が生まれてくる地域が多いんですね。

東駿河の地域では、いまのところそのような広域を統括する有力者の墓と見られる古墳が、少なくとも古墳時代中期、5世紀の頃にはどうも見当たりません。これは何も東駿河だけではなく、静岡平野、清水平野の辺りでも不明瞭です。静岡県内でいいますと、西の方にあたる遠江地域の磐田市に堂山古墳という100メートル級の古墳が古墳時代中期中頃に造られていますので、その地域には、古墳時代中期的なより広い範囲を支配する、大首長と呼べるような人物が葬られたと思われる古墳があつて、その人物を頂点としたピラミッド的な社会構造が見て取れるのですが、どうも東駿河ではその点がよくわからない。今回、時間の関係でそこまでの話はできないと思いますが、古墳時代中期の古墳が無いわけではなくて、今回取り上げた船津古墳群など、愛鷹山麓でも5世紀代の遺物を出土している古墳がありますので、そういったものを今後どう考えていくのかという点が問題だと思います。

いずれにしても、古墳時代前期から中期になると、先ほど言ったように、いくつかの小さな地域単位のまとまりから、それらがまとめられていくような時期になります。ところがやがて古

墳時代後期になると、それがまたバラけて小さな単位に分かれるという変化をたどるわけで、古墳時代中期というのは、いったん大きな政治的まとまりが汎列島的にいくつもできていくような時期、そういう意味では政治的に大きな変動があった時期だということは間違いないと思います。その背景には、当時、朝鮮半島で軍事的緊張が大きく高まる中で、皆さんもよく知っているように、ヤマト王権を束ねていたであろう倭王たちが何度も中国の南朝に使者を送って、いわゆる倭の五王が外交活動を繰り返しているわけですが、そういった動きも含めてかなり大きな政治的変動があった時期だと思われます。

ただ、実際に地域の中での集落の動きなどを見ると、それだけでは読み解けない要因がそこに介在しているように思われますので、その辺りを考える上でも、この地域の様相を一つのケーススタディとして見るのも面白いと思います。すみません、ちょっと長くなりましたが。

木村 ありがとうございます。今の、様相、というところを含めて、少し藤村さんの方から補足いただければと思います。

藤村 東駿河ですと、大きな古墳が5世紀代にはあまり見られないというお話だったかと思います。その一方でですね、地域的な観点からちょっと補足させていただきますと、この時期にどうも富士山の噴火活動もそれなりに活発であったということがいえると思います。近年、火山の研究者の方々により、富士山の噴出物の年代測定が進んでくる中で、4世紀の終わり頃から5世紀代にかけて、富士山の噴出物が南側や東側へかなり飛んでいるということがわかっております。

考古学的に発掘調査で集落を実際に覆った火山灰というのが特定できた例はそんなに多くないのですが、唯一、5世紀の末頃に富士山の南麓にかけて噴出した、「大淵スコリア」と我々考古学の研究者が呼んでいる例がございます。それですと今回お話に出てきた愛鷹山麓の集落とか、あるいはまた浮島沼ラグーンを挟んで反対側の田子の浦砂丘の集落周辺に、厚さ30cm以上の火山灰・スコリアが堆積しているということがわかって

ておりますので、そうしたものが堅穴建物を埋めている例もございます。それがだいたい5世紀の末頃ですので、ようやく古墳の築造が再開し始める段階でもあるのですが、そういったものが古墳の築造動向と、あるいは環境的な要因などともどのように組み合わさっていくかというのを、これから読み解いていく作業が必要なのかな、というふうに考えております。

佐藤 ありがとうございます。そうしましたら、今回のメインのテーマの方に少し入っていけるかなと思います。

今回タイトルに「愛鷹山に眠る開拓者たち」、副題として「東海最大級の古墳群と地域の再生」、そんなテーマを掲げさせていただきました。

東海最大級の古墳群ということで、藤村さんの発表の中でもありましたけれども、沼津市と富士市にまたがるこの愛鷹山の中に、1000基程度の古墳があるということが、今回の展示内容の検討でも整理できました。

「開拓者たち」という言葉からは、皆様いろいろなイメージを持たれるかというふうに思いますが、まず滝沢先生のご発表の中でも、この愛鷹山の古墳群を築いた人たちの生活域というのは田子の浦砂丘上にあるんだという、お話をいただきました。その中で開拓者たちという側面に加えて、滝沢先生は馬具の出土から交通路の整備ですとか、そういったことを切り口として提示をいただきました。

また一方で藤村さんのほうからは、田子の浦砂丘上にある沼津市中原遺跡の調査例などからです



第151図 トークイベントの様子（佐藤）

ね、水産加工、それから手工業生産センターのようなものも開拓者たちの素顔の中に切り口として提示をしていただきました。

違った切り口でこの「開拓者たち」というのを見てきたわけですが、滝沢先生のほうから藤村さんの切り口に対して、もしくは藤村さんの方からは滝沢先生の切り口に対して、お互い相反する切り口ではないんだろうというふうに思いますので、少し感想めいたものでも結構ですので、一言いただければというふうに思いますが、まず滝沢先生のほうから藤村さんにですね、一言いただければと思います。

滝沢 はい。藤村さんの今回のご報告をいただいて、私も大変勉強になりました。

「開拓者」、これをどういうふうに捉えるかですが、例えば一般の皆さんがそういう言葉の背後に普通感じるのは、それはどこからか別の人がやってきたのか、それとも在来の人たちが何か新しい事業に関わったのか、というようなところではないかと思っています。

地域の中の考古学的な証拠においてそのあたりはどうか、何か読み解けるような材料があるのか、という点を教えていただければと思います。

藤村 はい。「開拓者がどこから来たのか」というのは、勉強している我々にとっても興味関心のあたるテーマです。

愛鷹山麓の古墳だけでやっていくと我々もまだ見えきれてないところもありますので、隣の富士山麓の事例で恐縮なのですが、富士市の伝法地区に、中原4号墳という6世紀後半から末頃

に造られた、手工業生産に関わる遺物が多数出土した古墳がございます。その古墳の報告書を作っていく中で、この被葬者がどこから来たのか、あるいは在地の人なのか、というところにもやはり関心がおよんだ経緯がございます。その中で、中原4号墳の被葬者の例をあげさせていただくと、そのアクセサリーのパターンですとか、あるいは持っている馬具の種類ですとか、あとは鉄鏃の形ですとか、そういったところから、西日本と関係のある人ではないかと考えました。特に装身具、アクセサリーからはですね、今の愛知・岐阜から更に西側の滋賀とか、もっとそれより以西の人たちの装身具のラインナップ（種類や特徴）とよく似ているということが報告書の中で指摘されております。まあ、その一人の成果をもって、なかなか一般化はできないかもしれないですけど、同じような無袖の横穴式石室で、さらに菊池さんのお話の中にもありました中原4号墳と共通する段構造の石室というのも、この大規模群集墳の横穴式石室の特徴の一つだと思いますので、そういったところから行くと、中原4号墳と同じように外の地域からやってきた人たちというのが一定数いたとしてもおかしくはないかな、というふうに考えております。

木村 菊池さんのほうで、横穴式石室において東駿河でまとまりがあるよ、というお話いただいたんですけど、このあたり、石室のほうからなにかご意見ありますでしょうか。

菊池 はい。横穴式石室なんですけれど、先ほども少しご説明しましたとおり、富士より西側、静岡から伊勢湾岸にかけては非常によく似た原理と構造を持つものが分布してますけれど、この地域だけ少し特殊なものがありますので、もしかしたらこの地域の人たちは、そういった東海の西部の方を飛び越えた地域との交流があったというふうに考えたほうがいいんじゃないかなと思います。

ただそれがどこの場所かと言われると、なかなかそれはむずかしいところですが、西日本に広く求めていくのがいいかなと思いますし、また滝沢先生のお話にもあったように、関東とかそういったところとの繋がりとかも考える必要がある



第152図 トークイベントの様子（滝沢氏）

んじゃないかな、というふうに考えております。

佐藤 はい、ありがとうございます。藤村さんの発表のほうでも一つ、中原遺跡で掲げていただきました、水産加工ですとか各種手工業生産ですとかの存在した証拠が発掘調査で明らかになってきたという話がありました。

中原遺跡の成果について知らないっていう方々もいらっしゃると思いますので、実際、報告書をまとめられた木村さんの方から少し中原遺跡の紹介をいただく中で、この愛鷹山の古墳群が築かれていく背景みたいな、そういったことも、一言いただければと思います。

木村 はい。中原遺跡ですね。実際私も掘った面積はそれほど多くなくて他のスタッフが発掘を担当して、現在もまだ発掘調査中でして、今私が話すことは平成22年まで掘っていた分の成果というふうにお考えいただきたいと思います。ですので、今後、ちょっと評価が変わってくるかも知れないということを最初に申し上げさせていただきます。

私がまとめた分に関しましては、集落としては6世紀末頃から9世紀初頭位までで、最盛期は7世紀。ちょうど今回タイトルに入れてますけれど、古墳群が作られている時期が最盛期ですね。それから8世紀前半くらいまでが非常に多いという状態です。

手工業生産品、私の方の報告で出しましたけれども、8世紀入るかもしれませんが鉄鉋、これ以外にガラス小玉の鋳型、それから紡錘車、それから水産加工の埒や釣り針、こういったものなんかも多数出ています。それから鉄製品もたくさん出ているというのが特徴的なところです。ただ、中原遺跡で工房が見つかったかという、そういうものは実際に見つかっていないということになります。愛鷹山の古墳群、1000基築かれていて、そこに入っている副葬品をこういった集落が作っていたとなると、相当な数を作らなきゃいけないということになりますが、そういった工房とか、そういったものについての遺構としては、はっきりよくわからないということになります。

今回前提としまして、かなり中原遺跡と古墳群

の関係がある、という前提で話をしてきましたけれども、もう少し実は詰めなきゃいけないことがある、そういうような状態になっています。

佐藤 はい、ありがとうございます。中原遺跡のほうで、水産加工や手工業生産ですとか、そういった工業センター的な側面と、それからそれを外に運ぶための物流ターミナル的な側面など、いろいろな側面を中原遺跡に当てはめていく中で、そういった人たちが愛鷹山の古墳群、1000基以上の古墳を造っていく。そんな歴史の状況が見て取れるのかなと思いますが、7世紀にそれほど多くの古墳を作った愛鷹山の古墳文化も、いずれ終わりが見えてくるわけです。

今回のテーマのひとつでも、その後がどうなって今のまちの姿に繋がっていくのかというのが、趣旨説明で木村さんのほうからあったと思うんですけど、愛鷹山の古墳群が造られなくなった後、沼津、富士のそれぞれの地域がどういった地域発展を遂げていくのか、そんな話に移っていければと思います。

まず富士市の状況からできればというふうに思いますが、先ほど伝法古墳群といわれる、先程藤村さんのほうから紹介された古墳があるわけなんですけれど、その後7世紀以降、8世期の状況、愛鷹山の古墳の終焉から含めて、改めて提示していただければと思うんですが。

藤村 古墳とそれ以後の状況ということですが、先程来、私の方でもお話で出させていただいております、富士市の伝法地区あたりの古墳群において、6世紀の後半から7世紀代にかけて、



第153図 トークイベントの様子（藤村）

非常に卓越した副葬品を持つ古墳が継続的に造られているという状況がございます。

その古墳群が作られていた位置に、まさに8世紀の初め頃に、どうも古代の駿河国富士郡の役所に関連する建物ですとか、役所の関連施設、倉庫のような施設、あるいはその役所に出仕してくる人たちが住んだ堅穴建物がたくさん作られるようになっており、そういった（古墳群から郡家へという）変遷を遂げるのが伝法古墳群の一つの大きな特徴になってまいります。

このことから考えるに、どうも伝法古墳群のリーダーたちというのが、8世紀にそのまま富士郡の役所を管轄するような、いわゆる郡領氏族と呼ばれる地域を代表する指導者に成長していくのだろうというふうに考えております。

また一方で、愛鷹山麓にもたくさん古墳が築かれていたわけですが、富士市域、あるいは富士郡域のような（古墳群から集落・郡家へという）変遷を遂げるかといえば、愛鷹山麓だけみると、それはちょっと言えないかなという印象です。

佐藤 ありがとうございます。そうしましたら、沼津市域の状況について、木村さんの方からお話いただければと思います。

木村 私の方からは、沼津市側のお話をしたいと思います。先ほどの質問の中に、古墳時代中期、ここからだいぶ集落とか大規模な首長墳とか見えないっていう話からスタートしているんですけども、「地域の再生」というタイトルをつけたというのは、まずそこで一回、東駿河の状況がなかなか見え辛くなるというところから、古墳時代後期

にバーっと古墳だとか集落が増えていく、それがある意味、「地域の再生」というふうなイメージで捉えていくわけですが、それが8世紀になりますと、中原遺跡、先ほども言いましたが8世紀前半くらいまでが最盛期で、後半になってくると急激に、中原遺跡は集落の堅穴建物の数も減ったりするんですね。そして、沼津と富士の市境域というのがだいぶ見えなくなって、むしろ8世紀後半、それから9世紀くらいにかけて、今の沼津の中心市街地あたりに大規模な集落が展開していく、もう少し前くらい、8世紀の前半くらいから実際は展開し始めるわけですが、かなり変わっていくようなイメージがあります。

そういった感じで見ていきますと、古墳の終焉とともに中原遺跡がだいぶ下火になっていって、その人たちが実際に富士や沼津に移動したのか、それはちょっとわかりませんが、沼津の中心部には、さきほど私の話にもありましたが上ノ段遺跡とか、下石田原田遺跡とか、かなり大きな集落、あわせて日吉廃寺とかの寺院なんていうものが出てくる。そして、滝沢先生のお話に引きつけますと、それが古代の東海道の近くに作られている。つまりですね、7世紀代としてつくられてきた道という交通路の問題に乗っかりながら沼津の中心市街地にですね、大きな集落等が展開していく。まだ実際の場所というのは特定できませんけど、駿河郡の中心域というのがそういったところで出てくるのではないかという風に考えられます。

佐藤 ありがとうございます。今回、「愛鷹山に眠る開拓者たち」という、愛鷹山に存在する1000基以上の古墳群を共通のテーマとして、我々富士市の職員、それから沼津市の職員です、勉強してきたわけですが、こういった一つのテーマをもとに、沼津市らしさ、富士市らしさ、現代に繋がる部分がどういうふうにあるのかというのを、今回少しずつ明らかにしてきました。

二つ目のテーマとして、現在行政的に富士市と沼津市とわかれておりますけれども、「文化財を今後どう活かしていくのか」という、そういったことも今進めている最中です。そういった部分で



第154図 トークイベントの様子（菊池氏）

菊池さんの方から、地域計画、そんなお話もいただきました。現在、富士市の方では令和2年度、令和3年度と2ヵ年で地域計画というのを策定をしている最中です。その座長には滝沢先生にいただきまして、菊池さんのほうには県の職員としての立場で、我々の策定する計画を見ていただいている最中です。今日ですね、動画撮影日を基準にしますと明日、又その会議が富士市のほうでありますので、滝沢先生には連日我々のこういった文化財に対するイベントにお付き合いいただいているわけです。

富士市では先行して進めてまいっておりますが、沼津市さんの方も来年度以降、地域計画の策定に入るという風に聞いております。

富士市の方では、富士市の歴史や文化を示す15個のストーリーを関連文化財群とし、菊池さんの方からお話がありましたけれども、関連文化財群を活かして取り組むというのを設定しました。その中で、実は15のストーリーの中でも、2つ古墳のテーマをかかげて、かなり古墳推しのテーマを掲げております。

またもう一個、菊池さんのほうからもありました文化財保存活用区域というのがありますが、まあ一つの地域の中にいろんな文化財が集中している地域がある、そういったものを周辺の環境を含めて文化的な空間を創出するための計画をする区域というふうに言えると思うんですが、我々富士市の方では古墳が密集している須津地区をその一つに選んでいければな、と現在策定を進めている最中です。

またこういった県の立場でお付き合いをいただいている菊池さんの方から、富士市の方で今進めている地域計画に対して、また今後沼津市さんが進めていくであろう地域計画に対して、アドバイスの部分を一言いただければと思います。

菊池 今回の講演とも絡むんですけど、非常にこの浮島の地区というのが交通の結節点になったという話があるので、ぜひ沼津市さんのほうでこれから取り組むときには、広域連携ということ視野にいれていただければと思います。

今回の沼津市さんと富士市さんの共同の開催

事業も広域連携の第一歩なのかもしれませんが、もちろんこの地域の古墳というものもそうですけれど、他の地域との連携というのも視野にいれてもらうことで、沼津市らしさ、さらに関連地域との関わりがたくさんあるよということで、歴史的な視点を加えることができるんじゃないかなと思います。

またこの今回のタイトルで、「愛鷹山に眠る開拓者たち」ということになってはいますが、古墳の開拓者はもちろんなんですけれど、浮島沼は近世から昭和にかけての干拓の歴史もあって、そういった開拓者っていうのもキーワードになってくるかと思いますし、できればぜひ目指していただきたいのが、古墳の活用の、開拓者となるような両市になっていただければと考えております。

佐藤 はい。重い宿題が与えられたような気がしますが。

滝沢先生の方には今、県の大綱の策定の座長もお務めいただきまして、富士市の方の計画の座長もお務めいただいております。また、明日の会議にもまたご出席いただくわけですが、滝沢先生の方から、我々の文化財に対する宿題でもいいですし、文化財を活用していくにあたって、もしくはそれを守り伝えていくのは、もしかしたらこの動画を見ていただいている皆さん方かもしれませんが、いろいろな人に対して、我々に対してもそうですし、文化財を取り巻く人々に対するメッセージをいただきたいと思います。

滝沢 はい。ただいま大役を仰せつかったのですが、まずそこに行く前に、富士市の方が先行して地域計画が策定されようとしているわけですが、隣接する市であるとは言え、それぞれに特徴があるという点にふれておきたいと思います。

富士市の方は、さらに北側にある富士宮市も含め、富士山というのが一つの大きなテーマになるわけです。もちろん沼津市からも富士山は見えるわけですが、沼津の場合は伊豆半島の一部も含まれていて、そこは一つ沼津の大きな特徴にもなってくるのだと思います。そうした個性を活かしたかたちで、特にこれから地域計画を作成していく沼津市に関してはその点への意識が期待され

るところだろうと思います。

ただし、だからといってそうした個性の部分だけではなく、愛鷹山麓の古墳文化などは、まさに両市の接点になるようなテーマですから、今回企画された講演会のように一層連携が深められればいいのではないかと考えています。富士市の方は先行して地域計画を作っていますが、その点については私もとりまとめ役としてなかなか考えが及ばなかった部分もあるかもしれません。

おそらく、各自治体で作成する地域計画というものは、それぞれの行政の中で閉じた形になりがちなのではないかと思うわけですが、これから進めていく沼津市は、後からスタートするという利点を活かしてそういったところを考えていくのも一つの手かなと考えます。もちろん、それぞれの行政では、その範囲でいろいろプランを作らざるをえない側面があると思うのですが、お互いの接点をうまく接続できるような、開放できるようなあり方を模索していくのも重要だと思います。そういう意味では、愛鷹山麓の古墳を協力して位置づけていくというのは、両市にまたがる非常に重要な課題であって、それはいま述べた点を実現していく典型的なケースになりうると思います。

まず、そのことを申し上げた上で、最初のご質問についてですが、こういった文化財を保存し、後世に伝えながら活用していく、あるいはみんなでそれをもとに学んでいく、という場合の主役は、市民のみなさん、国民のみなさんですので、今回のような形で文化財に対する発信が近年どんどん進んできている中で、興味をもっていろいろなイベントに参加し、関心を深めていただいて、行政の方にも忌憚のないご意見を寄せていただければいいのではないかと思います。そういうことが、今後の文化財の姿を形作っていくことになるでしょうし、それがひいては地域づくり、街づくりにも役に立って行くんだろうと思いますので、ぜひ、大いに関心をもって、古墳に限らず、文化財について学び、そして見守っていただきたいと思いますところでは。

佐藤 はい、ありがとうございます。

動画を本日ご覧いただいている皆さん方、沼津

市の方々ですと、沼津市といえば、古墳と言えば高尾山古墳、富士市で言えば浅間古墳、確かに古墳時代の前期の大型の前方後方墳としては全国的にも有名な古墳ですし、またその保存についてもいろいろと議論がかわされてきたところでありますけれども、皆さん方ももしかしたら、そういった大型の古墳についてのテーマをまた今度やってほしいなあというふうなご意見があるかもしれません。

また、今回ですね、我々が進めていることは、滝沢先生の方からもありましたけれど、こういった連携の事業というものはまず第一歩ですので、お互い地域計画ということを作ることもちろんそうなんですけれども、我々文化財行政の担当者レベルできちんと連携をとりあって、今回のこういったテーマ、連携の事業で終わることなく、また今後も、またそういった高尾山古墳や浅間古墳といった、また別の切り口での連携を、またさらに進めていって皆さん方が、この富士市らしさ、もしくは沼津市らしさ、もしくは古墳文化ということ、文化財そのものに触れることのできる機会をなるべく多くつくって、みんなで文化財を守って、みんなで文化財を活かして、楽しんでいきたいと、そんなふうと考えております。皆さん方から次またこんなテーマでやってほしいよということがあれば、またわれわれのほうにどしどしとご意見いただければ、皆さん方を、我々、応援団というふうと考えて、次のテーマをどんどん進めていきたいなというふうに思います。

では、最後に木村さんのほうから、今回の企画を我々と一緒に作り上げてきた木村さんの方から、最後に閉めの一言をいただいております。

木村 最後の言葉になります。あまり長くしないようにしておきたいと思います。

今回、やっぱり愛鷹山の古墳群の特徴というか、中期の全国レベルの大首長が築いた古墳だという話ではなくて、今話が出ましたけど高尾山古墳、浅間古墳のような、大規模な王が地域を治めているような、そういうストーリーじゃなく、藤村さんがヒストグラムなんか出していただきましたけ

れど、中規模な、まあ、1000基ということですから、かなりその並びたつような、そこは大きな階層性っていうのは、そこまでいえないっていうような、そうした人たちが築いてきた文化ということになろうかと思います。それが沼津と富士にまたがっているということ、こういうところが今回のポイントだったのではないかな、というふうに思います。これがですね、もしかしたら、まだまだ掘り下げも必要でしょうし、検討する課題というのたくさんあるということは理解はしておりますけれども、こういう人たちがいろんな側面を持っていた、その「開拓者」という言葉でまとめましたけど、水産加工であったり、鉄の加工であったり、いろんな、道のことだったり、そういったものを含めると、それが意味「地域らしさ」というものに繋がってくるのではないかなというふうに、今、考えているところです。

こういった試みが、うまく皆様方にお伝えできたのかなというところで、若干の不安がありますけれども、今回こういった意図をもって講演会をさせていただいたということになります。

ちょっと慣れない動画撮影ということで、本来であればお客さんとのキャッチボールなんていうのがあってですね、我々行政レベルでの交流以外、やっぱり市民の中での交流ですね、みんなで文化財を守っていきましょうということになりますので、そういったものも本当はできればよかったのですが、是非こういった動画を見ていただいてですね、沼津市と富士市の方々、それだけでなく、動画をみていただいている隣の地域の方々と手を取り合っていて、みんなで文化財をまもっていくと、そういった流れになっていく、それがうまくいけば今回の講演会の役目を果たしたのではないかなというふうに思っております。長時間でございましたけど、最後まで観ていただきまして、ありがとうございました。